

交通安全教育の実践的推進－高齢者に配慮できるドライバーの育成を中心として－

主査 井原健雄(香川大学名誉教授)

本研究プロジェクトでは、交通安全教育に関する教材開発と、開発した教材等を用いて、効果的に交通安全教育を推進するための手法を検討することを主な目的としている。われわれの調査研究の結果、「香川県交通安全教育推進会議」では、導かれた提言をもとに、各種の交通安全対策がとられ、着実に成果を上げつつある。平成 21 (2009) 年度については、以下のようなテーマで研究を行った。

- ①「危険予測トレーニング用動画教材（高齢者配慮編）」の作成
- ② 実技型のトレーニングとしての「コメンタリードライビング」について、実践の継続
- ③「マナーアップトレーニング用動画教材」の作成

これらのうち、①については、今後激増が予想される「高齢者の交通事故」について、その相手方となる「若者および成人（高齢者を含む）ドライバー」への啓発を図り、もってその減少に資するべく、「危険予測トレーニング用動画教材（高齢者配慮編）」の作成を行った。メディアは今回より、DVD-ROM を使用している。

その構成は「オープニング」、「本編」、「データ集」、「ゲーム」である。「本編」では、まず、「高齢者の身体的・心理的特性」を説明し、続いて、「歩行者編」、「自転車編」、「自動車編」と、実際の事件事例に基づいた、高齢者に気をつけておくべき典型的問題を精選して出題している。

次に、②については、平成 21 (2009) 年中に、高松短期大学の学生を対象として、実践を行った。

そして、③については、「危険予測」とともに、交通安全教育の根幹をなす「他の交通参加者への注意や配慮」について啓発を図るために、「若者および成人（高齢者を含む）ドライバー」を対象として、「ゆとり・きくばり・おもいやりで良くなる香川県の運転マナー」の作成を行った。交通マナー、とくにドライバーのための本格的なマナーアップ教材は、その重要性にもかかわらず、平成 22 (2010) 年の時点においても、きわめて稀少である。

その構成は「オープニング」、「カーコミュニケーションの原則」、「ゆとり編」、「きくばり編」、「おもいやり編」、「エンディング」である。本編となる「ゆとり編」、「きくばり編」、「おもいやり編」では、説明の便宜上、それぞれ「ゆとり」、「きくばり」、「おもいやり」をキーワードとして、実際によく見かける基本的かつ平易な事例を精選して配置している。